ボクっ娘
爆乳デリバリー

「ボクっ娘爆乳ソープ……？」
街角で見かけたその広告に俺はすぐ電話した。
近場のホテルで待機していると数十分後、
「お電話されて来ました～扉あけてくれる？」
「こんばんはボクはヘスティア。キミを神のおっぱいで天国に誘ってやるぜ！」
「幸薄そうな顔してるね、まぁせっかく来てあげたんだしボクに任せてよ♡」
「は、はぁ……なんで頼んだ俺よりテンション高いんだこの娘……」
「さあーてボクの自慢の爆乳でキミのムスコを神なる愛で包んで……」
すりっ
しつこ

「うぇぇぇぇー!?」
びくっ
まぎーん

「う、うーん、ボクのじまんのばくにゅうでは
キミの逸物は包めないみたいだね…」
「ちょっとびっくりこいたよ…うん」
「いやなんか……すみません」
「まあそれはいいんだ…
それよりボクのテクニックを見せてあげるよ！くそぉ！」
ぽふぷ

「ほらほらどうだい？こんなパイズリ初めてだろう？」
「すげえ、目の前でヘスティアちゃんのエロデカ乳輪ぶるぶる揺れて興奮する……！」
んっ♥
たぷ
たぷ
ぺろっ♥
「うおぅ……！亀頭ペロペロされるとじんわり気持ちいい……！」
「そうだろうそうだろう。亀さんも赤くなって嬉しそうだね♥」

「おちんぽビクビクしてるよ？そろそろイきそうなのかい？」
「くぅ、あぁ……溜まってた精子だしちゃいますっ！」
「た～っぷりぶっかけていいよ♡
ほらっ、ボクの爆乳パイズリでイっちゃえ♡」
たぷ
たぷ
んっ♥
んっ♥
ぺろぺろ♥

ビクッ
ビクッ

「うわーすっごい濃厚ザーメン♡
キミもこんな溜め込んで大変だねえ…♡」
はぁ♥
んぁ♥
「さてどうする？もうおまんこしちゃう？」
「ボクはなんでもいいよ……♡」
HOッ♥

「どうだいっ・ボクの一級品のおまんこは♡」
パンッ
パンッ
んっ…♡
「くっ、自分で言うんですか……！
でも確かにすごく具合がいいです……！
膣中がうねうね動いて……！」

「はぁっ…くっ！うぁぁ」
パンッ
パンッ
ズブ♡
「おやおやそんな夢中になっちゃって…かわいいじゃないか♡」

「こんなもんぶら下げて…くっそ！」
「うおっやわらかっ…！指が沈み込む……」
パンッ
パンッ
んふっ♥
もみ
もみ
「女の子の身体で一番のやわらかポイントだからねっ♥
爆乳のボクの場合は特に♥」

「はあっ……！はあっ……！はっはっはっ！も、もう……！」
ぬぷぷっ♥
ぬっぷっ♥
ぶるぶる
ぶるぶる
「いいんだよ？膣中にぶちまけてくれて……♥
キミの欲望を全部ボクにぶつけろ、がいいさ♥」
しっ♥
しんあ♥

「ふぁ♡んっ♡♡」
あッ♡
ぺちッ♡
ぱぁんっ♡
ぴゅるっ♡

「あぁん♡ 二発目なのにたくさんどぴゅどぴゅしてくるね～♡」
「おまんこから溢れてきちゃうよ♡」
どクッ♥
どクッ♥
にちっ♥
いっ♥
「……ヘスティアちゃんちょっと要望があるんだけど…」

「…なぜキミはこんなスケベな道具を用意してるんだい？」
「ま…なんでもいいけどさ……んっ♡」
ぬぷぷぷ♥
むち♥
むち♥

「んっんっんっ♡この体勢だと深く入ってくる…♡」
「はぁ…！目の前でおっぱいが踊ってる…！」
「ボクのおっぱいぶるんぶるんしてるのがそんなに楽しいのかい？」
「男の人はいくつになっても変わらないものだね…♡」
ぬちゅぬちゅ
ぬちゅぬちゅ
ぶるんっ
ぶるんっ

「んあっ♡キミのギンギン勃起おちんぽとボクのおまんこのラブラブキスいいっ♡」
「やっぱり相性ばっちりみたいだねっ♡はぁ♡」
「ヘスティアちゃんのエロ水着似合いすぎる…こんなの勃起収まらない…！」
ぬちゅぬちゅ
ぬちゅぬちゅ
ごりごりっ
ごりごりっ

「あんっあんっ♡はぁん♡ストロークはげしいい♡
ボクのおまんこの形がキミ専用のちんぽケースになっちゃうっ♡♡」
「キミのザーメン欲しがっちゃうぅ♡ほぉ♡
ボクのおまんこザーメン欲しくてくぱくぱしちゃうよ♡♡」
「俺ももう限界…ヘスティアちゃんの膣内にでるぅ!!!」
パンッ!!
パンッ!!
パンッ!!
パンッ!!
ごりゅっ♡
ごりゅっ♡

「おおおぉぉぉん♡♡あぁぁあぁぁぁ♡♡♡」
あ〜〜♡
ドビュ
ドビュ

「はぁ、はぁ……すげえ搾り取られた……」
はぁ♡
はぁ♡
「はーっ♡はーっ♡すごい量出すねキミはホントに……♡」
「ボクとしたことが気をやられてしまったよ……♡ひどいおちんぽだっ♡♡」

「どーも、デリバリーされましたっ！
ボクはシャルロット・デュノアっていいますっ！」
「シャルでいいよ、よろしくね！」
「あ…どうも……」
「へーふーん……キミが噂の？」
「ヘスティアちゃんから聞いてるよ、スッゴイの持ってるんだって？」
「いや、噂って…」
「まーまーあんま気にしないでよ。
それじゃあボクのおっぱいの実力を知ってもらおうかなっ、ふふっ」
んっ
プルン

「おっきなおちんちんしてるね…ボクでもこんなサイズは初めてだよ…うんしょ」
「うっ……おおっ」
「俺のちんこすっぽり包んで……！なんておっぱいなんだ……！」
「へへーしこうやって極パイズリにしたらキミのサイズでも収まるねぴ」
「ま、ボクのおっぱいだからこそできる芸当だけどね？」
んっ♪
プルンッ♪

「ほ～らこれがキミが望んでたパイズリだよっ♥」
「くっ……すごいっ、シャルさんのすべすべおっぱいっ……」
ん～♥
ぬちっ♥
ぬちっ♥
「ふ～ん、おちんちんゴシゴシされて
気持ちよくなっちゃうんだ～♥それそれっ♥」

「まらまらあレ亀さんもブシブシしちゃうっレレ」
「こんなおっぱいマンコ反則ですよっ！も、もう出ちゃいますっ」
あっ♥
ぬちっ♥
ぬちっ♥
ぬちっ♥
ぬちぃ♥
ぐちゅ♥
「いいよ♪遠慮なくボクのおっぱいマンコに
キミの初出し濃厚ザーメンどぴゅどぴゅしてねっ♥」

「くああああーーーーーー!!!」
ぴゅるっ♥

「はあ…はあ…くぅ」
「わぁーすっごーい♥噴水みたいに吹き出してくる♥」
「ボクのおっぱいが妊娠しちゃいそうだね♥ふふ…」
んっ…♥
ビク
ビク
じゅるっ♥
じゅるっ♥
びく
びく
「シャルさんのおっぱいマンコすごかったです…魔性のおっぱいだ…」
「そおっ♥ありがとう♥」
「じゃあ早速二回戦いっちゃう？
ボクのおまんこも名器って評判なんだよ？」

「じゃあいきますよ…シャルさん」
「ボクの方はいつでもいいよ、早くキミのおちんぽ食べさせて♡」
フリ♡
フリ♡

「子宮の奥の方まで…ずちゅ、って入ってきたぁ…♡」
んっ♡
「ふふ…♡やっぱりすごいやキミのおちんぽ♡
普段当たらない位置まで届いて気持ちいいよ♡」
ずちゅ♡

「ふひぃ♡ずんずんボクの敏感なトコ突いてきちゃやだぁ♡
はしたない声でちゃう♡」
「くぅ!……シャルさんのエロ肉もすごい絡みついてきますよ……!」
「おまんこがおちんぽ求めるのはメスの本能だよぉ♡
キミのオスの象徴がすごすぎるからぁ♡♡」
パンッ
パンッ
ぷる
ぷる
んぁ!
んッ♡

「こんな感覚初めてっ♡
ボクも知らないポイントバコバコ突かれてるっ♡♡」
「デカチンすてきぃ♡こんなの卑怯だよっ♡♡」
パンッ
パンッ
ぷるぷる
ぷるぷる
んっ♡

おッ♥
んあーっ♥
「こんなでかい乳揺らしやがって！エロすぎるんだよ！おらおらっ！」
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
「ふぁ♥おまんこえぐられてるぅ♥ボクのおまんこ壊れちゃうぅ♥」
「おちんぽ膨らんでるっ♥射精するのぉ♥
ボクの子宮にザーメン注がれちゃうよぉ♥」

「んほおおおぉぉ♡ふあっぁあぁあぁあ♡♡」
ビュウウッ
ビュッ
ビュウッ

「ほへぇ♡ザーメン叩きつけられて…ボク……イっちゃったぁ♡」
「このちんぽすごすぎぃ♡こんなのすぐメスになっちゃう♡」
ぶしゅっ…
ふーふー♡
ぶしゅ♡
ぶしゅ♡
ぶしゅ♡

「あぁ…キミってこーゆー趣味なんだね」
「シャルさんのはみ出たむちむちおっぱいたまんないですよ！」
「最高です～！！」
「あーはいはい。ちんぽいれちゃうよ？」
むち♥
むち♥

「んっ♡デカマラきたぁ♡ボクの入り口にコツンコツンあたってるぅ♡」
「ボクの淫靡な腰振りダンスよーくみててねっ♡」
ズッ♡
ズンッ♡

「んおぉ♡んひぃ♡ふっふっ♡♡あはっ♡♡」
「おっほぉ♡下品な喘ぎ声でちゃう♡♡」
「シャルさんのおっぱい揺れすぎっ、もう水着はだけちゃってるっ」
「ちんぽでボクの秘の部分さらけ出しちゃう♡♡んっ♡」
「ボクのちんぽ中毒バレちゃうよぉ♡♡♡おおぉん♡♡」
しんあ♡
ぶる、
ぶる、
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡

「もうイクッ♥ボクいっちゃうからぁ♥
キミもいっしょにいくよあはぁ♥」
「俺も……でるぅ！ザーメン欲しがってる
シャルの淫乱ダンスで精液絞りとられるっ！」
ぶる、
ぶる、
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥

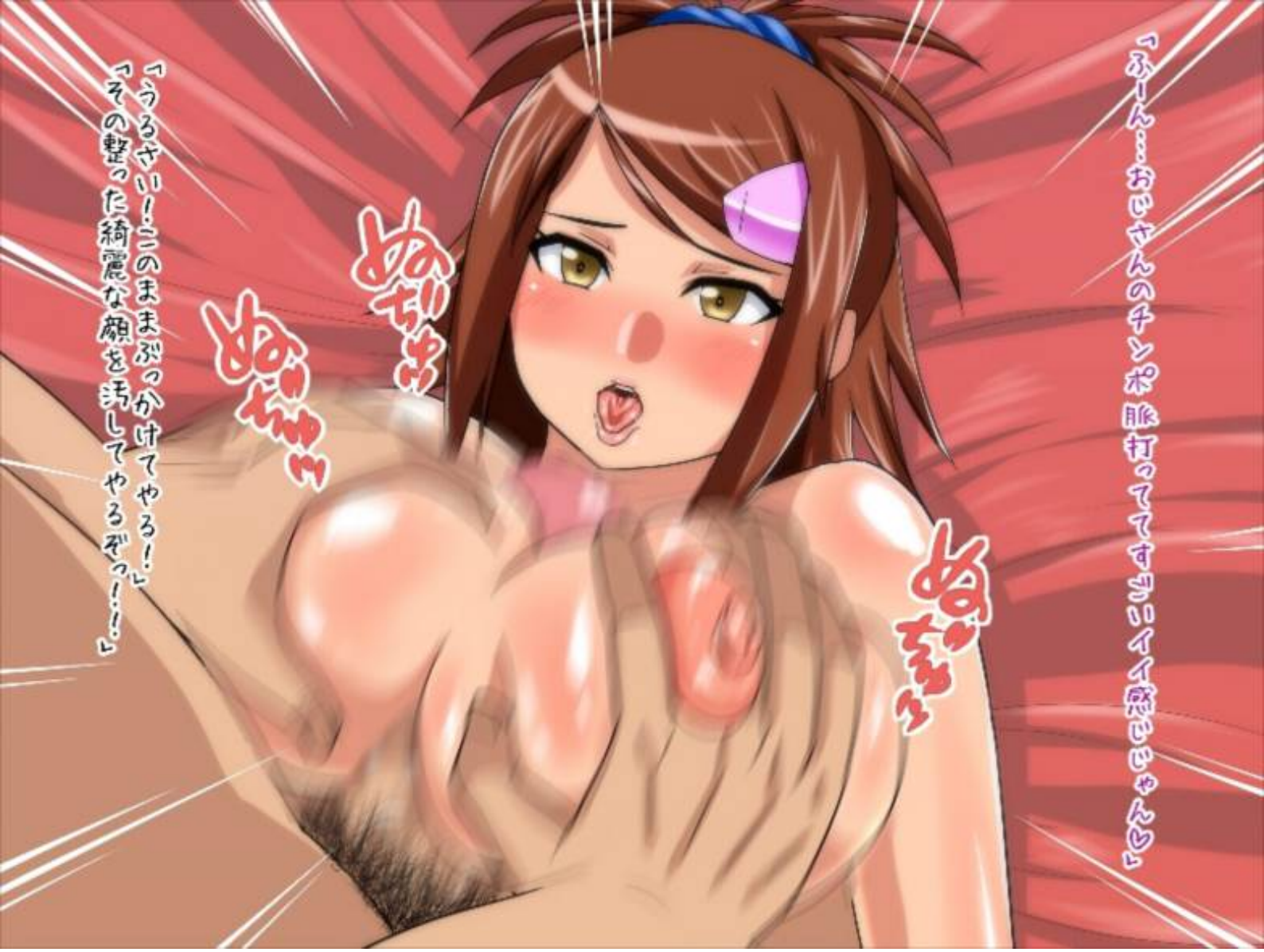
「っ♥おおぉっ♥んっほぉおおぉっ♥♥♥」
んあ～っ♥
おッ♥
ビュウウッ
ビュッ
ビュルッ

「ふぁんへぇ……♡はーっ♡はーっ……♡♡」
「あーっ…気持ちいいのずっときてる……」
はぁ♡はぁ♡
いいっ♡
どくっ♡
どくっ♡
ダラ
ダラ
「すっごいヌかれた…シャルもすげえエッチな娘だなあ」
「んっ♡まあねっ♡またのお電話お待ちしてますっ……♡」

「あれ？デリバリー依頼したのっておじさんで合ってる？」
「……一応そうですが」
「ひゃーおじさん冴えないオーラすごいね！」
「じゃあ一発抜いてサッサと終わらせよっか？
早くポロンと出しちゃって！」
むち
むち

「ひゃん！もぉーいきなりなにするの！」
「いや……なんか腹立ったから……」
ん♥
「あとおじさんじゃなくてお兄さんにしてくれないか！」
「まだ俺は二十代だ！」
「……？おじさんじゃん」
むち♥
むち♥

「この小娘！もう好き勝手やってやる！」
「今どきのボクっ娘はこんなとこばかり成長しやがって！くそぉ！」
「もぉ乱暴だなぁ……」
ぬぢゅぢゅ
ぬぢゅぢゅ
「肉厚ですべすべなおっぱいオナホぉ！」
「これが気持ちよくないわけがないだろ！」


「ふーん…おじさんのチンポ脈打っててすごいイイ感じじゃん♡」
ぬぢゅぢゅ
ぬぢゅぢゅ
ぬぢゅぢゅ
「うるさい!!このままぶっかけてやる!」
「その整った綺麗な顔を汚してやるぞっ!!!」

びくっ♡
びくっ♡
びくっ♡

「うわぁ♡おじさんいっぱい出してくれちゃって…♡」
「髪についたザーメン洗うのけっこう大変なんだけどぉ♡」
「……全然改める気はないみたいだな……」
むわぁ…ト
Hot♥

「あっ♡もうおじさんやることと早いなぁ～」
「そんなにボクとおまんこしたかったの？」
「ここちとらいろんなモンが溜まってるんだよ！
今日は全部お前に吐き出してやる！」
パンッッッ
パンッッッ

「オマエじゃなくてボクには馬超っていうカッコイイ名前が…んあっ♡」
「おじさんのおっきなチンポっ♡すごいっ♡
普通じゃ届かないとこまでえぐられてっ♡♡」
パンッッ♡
パンッッ♡
ごりゅっ♡
ごりゅっ♡

「おじさんのストロークはやすぎっ♥ボクこんなの初めてだよぉ♥♥
巨大チンポでおまんこズボズボされてボクイっちゃうっ♥♥♥♥」
「おらおらおらっ！社会人の溜まったザーメン受け止めろっ！」
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥

「んおおぉぉっ♡あっ♡ほおおぉぉっ♡♡」
ビクッビクッ
ドビュッ
ドビュッ
ビクッビクッ

「んぁ♡ボク…冴えないおじさんにイカされちゃったぁ…♡」
「まだまだぁ！お兄さんの精力はこんなモンじゃないぞ！」
ビクッ♡
ビクッ♡
ドプッ♡

ぬぷぷっ♥
ぬぷぷぷっ♥
ブルッ♥
ブルッ♥
ぢゅぢゅぢゅ♥
「んっんっ♡んあっ♡うん……」

「……ねえおじさん、このハートのシールの意味って」
「気にするな!!馬超は年相応じゃないおっぱいをぶるんぶるん揺らしながら腰を振ってればいいの!」
スッ♥
にちゃ♥

「あんあんっ♡ふぁ♡」
「もぉなんでこんな気持ちいいんだよぉ♡♡」
ぬぷっ♡
ぬぷぷっ♡
んっ♡
んぁ♡
「おじさんに言われなくても腰を振っちゃうぅ♡
ボクのでりけーとな部分にガンガンきてるぅ♡♡」

「はっはっはっ♡おじさんのチンポびくびくしてる♡」
「出しちゃうのっ♡
またボクの赤ちゃんのお部屋に濃厚ザーメン吐き出すのぉ♡」
ぬぷぷっ♡
あぁ♡
ぬぷぷぷっ♡
「くぅ…！俺の欲望全て馬超の子宮にぶっけてやるっ！
馬超の膣中を俺のザーメンで塗りつぶしてやる！！！」

「あっあっあっ♡イくっイクイクイクいくぅ♡♡」
「おおおぉおおん♡♡」

「ほぉおおっ…♡おじひゃんのザーメン昇ってくりゅ……♡」
「しきゅうがたぷたぷいってろぅ…♡
イキっぱなしになってろよぉ♡♡」
ごぷ…
「ふぅ、ふっ…おじさんじゃなくてお兄さんだろ…？」
「お、おにいひゃんのちんぽひゅごいい……♡おほぉ♡」